

しおんだより VOL.20



褥瘡の専門的治療に取りくんでいます

ご高齢の方が体調を崩され、一時的に寝たきりに近い形になると、どうしても、褥瘡（じょくそう：いわゆる「床ずれ」）の問題は避けられません。

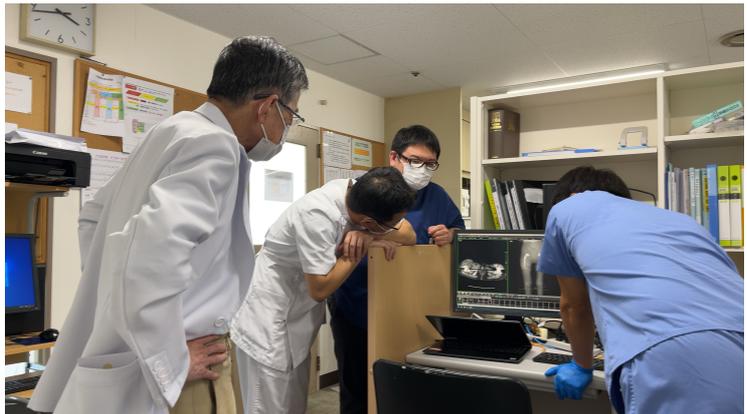
早期に治療をすることはもちろん、体位や栄養管理などを含めた予防も重要ですが、重症化して入院される方も少なくありません。実際、発熱の原因を調べていくと、肺炎でも腎盂腎炎でもなく、大きな褥瘡に溜まった膿が原因だったということもあります。褥瘡があると、患者さんの苦痛もありますし、ケアにも時間がかかるだけでなく、入院期間そのものも長引きます。入院後スピード感を持って治療が進み、退院を向かえるためには、チーム医療・多職種連携が必要で、特に、皮膚科医や認定看護師の専門的な知見や手技も欠かせません。

当院では、西成区岸里のあみ皮フ科の先生や看護師を交えた専門的な褥瘡回診を毎週行うとともに、当院外科の江田医師による連日の回診や処置をチームで行う体制を整えています。大きな褥瘡が、時間はかかるかも知れませんが、着実に治していくとともに、褥瘡を作らないような予防や栄養管理を充実させていくことで、「安心・安全」に入院期間を過ごしていただけることを目指しています。

皮膚科専門の先生や、皮膚・排泄ケア認定看護師にも加わっていただく褥瘡回診。当院からも、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種が参加しています。

各科のドクターが知恵を寄せ合って治療を行っています

当院には、常勤で、私を含めて9名の医師が居ます。大学病院や大きな病院と異なり、たくさんの医師が居るわけではありませんが、それぞれ、専門性を持った医師が勤務し、治療に当たっています。



高齢の方が多くなってきた日本では、患者さんが一つの疾患しかもっていないということは、ほと

んどありません。糖尿病や高血圧がある方が、胃潰瘍を併発された、とか、認知症がある方が転倒して太ももの骨を骨折したといったように、主治医はいますが、やはり他の医師の専門性を必要とする場合が多いのです。

さらに、高齢者の誤嚥性肺炎などでは、治療だけでなく、リハビリや栄養の観点からどうサポートするのかということも重要になります。当院でも従来から各科のドクターが共に相談しながら治療を進めて参りましたが、以前、お伝えしたように3月から電子カルテが導入されたことにより、この連携が従来以上に進むようになったと実感します。

鬱陶しい梅雨のシーズン。脱水にはお気を付け下さい。



朝顔も咲き始めました。
夏が待ち遠しいです。

今年の梅雨入りは例年より遅かったようですが、鬱陶しい雨の日も多くなってきました。

朝晩は気温が少し下がることもある一方で、日中は、30度を超える日も出てきます。この時期、脱水症のような症状で受診されたり、救急搬送される方も増えてきます。

テレビやラジオでも呼びかけられることですが、お部屋に居ても熱中症になります。エアコンは積極的に使うとともに、病気で制限されていない方は、こまめに水分補給をしましょう。口が渇いたり、おしっこが濃くなったりしたら要注意。

まだまだ身体が慣れていない時期ですので、真夏以上に、熱中症対策にはお気を付けくださいね。(文責：狭間研至)

しおんだより 第20号 発行日：令和4年6月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp